

7 単元について

○ 児童の状況

書くことに苦手意識をもっている児童のことを考えたとき、クラスの児童の顔が次々と浮かんでくる。国語科の時間で、自分の考えをもってはいてもどう文章で表してよいのか考え込んでいる児童。「書きましょう。」のひと声に泣きそうな顔をする児童。これまでそんな児童の存在を意識して、書くねらいや内容を明確にしたり例文を提示したり付箋紙やワークシートを用意したりするなどの工夫をしてきた。そこで、何とか自分の考えは少しずつ書くことができるようになってきた。しかし、語彙が少ないために簡単な言葉で綴っていたり思いつくままに書いたりしているので、自分の考えが明確になる構成になっていなかったり、読み手をひきつけるような表現の工夫がみられなかったりと課題が多い。

一方、書くことを得意とする児童も数人いる。それらの児童が書いたものをみんなの前で紹介して、書きぶりや表現の工夫などを共有する活動を行ってきた。本単元でも、紹介や交流を記述の途中の段階で取り入れ、お互いのよさを取り入れながら、書く意欲を喚起させたい。

想像した物語を書くにあたっては、ほとんどの児童は空想をふくらませて楽しみながら構想を練ることが予想される。しかしいざ書き始めてみると、それぞれの児童によって読書体験や想像力、文章を書く力の差は大きく、豊かな想像の世界を表現する児童もいれば、あらすじだけに終わってしまう児童がいることも考えられる。

○ 教材の価値

「ふしぎな夢の世界」の物語は、夢の中という設定のもと、登場人物、場所、そこでくりひろげられる出来事や事件などを自由に想像して書くことができる。「ハリー・ポッター」などの長文のファンタジー作品やアニメの冒険物語に親しんでいるこの時期の児童なら、ファンタジーの世界に遊ぶことの楽しさを実感し、想像力をふくらませ豊かな言語感覚を身に付けていけると考え本教材を設定した。

前教材の「注文の多い料理店」では、作者が工夫を凝らした構成や文章表現が物語のおもしろさにつながっていることを学んだ。本教材では物語を書く時に、前教材で学んだことをヒントにして書き進めていくことができ、書くことに苦手意識をもつ児童にとっても参考にしやすいと考えた。

本教材を通して、場面の展開の仕方や構成を考えながら登場人物の行動や様子を詳しく書いていくことで、文章を書く力をつけてほしいと考えている。また、表現を工夫することでより物語がおもしろく豊かなものになることを実際の体験を通して学んでほしいと考えている。

○ 指導の工夫

本校では年に1回地域の幼稚園との交流会が行われている。本単元でつくった物語は、図画工作科の時間に絵を描いて絵本に仕上げ、11月の交流会で園児に読み聞かせを行う予定である。交流後はそれぞれが描いた絵本を「5年〇組☆夢物語～39人のゆかいな作家たち」と題してクラスでまとめ、図書室の特設コーナーに置く計画にしている。導入から、相手意識・目的意識をもたせることで意欲的に書く活動に取り組みせたい。

実際に物語を書く時には、「設定」「展開」「山場」「結末」の流れがひと目で分かるような構成表を作り、あらすじをもとにしながら書き進めていくようにする。また、夢の入り口＝「設定」と夢の出口＝「結末」の文章は同じにして「5年〇組の夢物語」としての統一感をもたせるとともに、どの児童もスムーズに書き進められるようにしたい。

さらに表現の工夫を取り入れる時の手だてとして「表現のたまたま箱」を提示する。「表現のたまたま箱」の中の「お宝・松」はクラス全員が必ず物語の中に取り入れるものとして提示する。さらに少しずつグレードアップさせた「お宝・竹」「お宝・梅」を提示して、それぞれの児童が表現を工夫しながら書いていけるようにしたい。

書く活動の中間と最後では、友達同士で書いたものを読み返し「お宝・松」の工夫が入っているかを確認させたり、よい点を中心に感想を交流させたりする。友達との交流でお互いの表現のよさを認め合い、次の学習の意欲へとつなげていきたい。

8 単元の学習と評価の計画

次	時	学 習 活 動 (評価方法)	観 点		
			国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
一	1	物語に書きたいふしぎな世界を想像し、主人公の人物像とあらすじを考える。 (ワークシート)	○		
二	2 3	あらすじに基づいて、物語の構成を考える。 筋の通ったものになるように、物語の構成を整える。(ワークシート)		○	
三	4 5 6	構成をもとに、表現を工夫して物語を書く。 友達の書いた物語を読んで感想を伝え合う。(Part. I) (本時) 構成をもとに、表現を工夫して物語のつづきを書く。 (発言・行動観察・作品)		○	○
四	7	友達の書いた物語を読んで感想を伝え合う。(Part. II) (発言・行動観察)	○	○	

9 本時の目標

- 友達の書いた物語を読んで、表現の工夫に気付くことができる。

10 学習展開

学 習 活 動	指導上の留意事項	評価規準・評価方法
1 前時の学習を思い出す。 2 本時のめあてを確認する。	○ 物語を書くにあたって、取り入れる表現の工夫を思い出させる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 友達の物語を読んで、工夫された表現を見つけよう。 </div>		
3 友達の書いた物語を読み合う。 (ペア学習) ・「お宝さがし」 ・「主人公の人物像クイズ」 ・「ひとことプレゼント」 4 全体で交流する。 5 次時の学習を確認する。	○ 「お宝・松」が入っているところに赤，そのほかに見つけた工夫に青でしるしをつけさせるようにする。 ○ 主人公の性格や特徴を考え，付箋紙に書きお互いに見せ合わせる。 ○ よいと思ったこと，おもしろいと思ったことなどを中心に励ましの言葉を伝える。 C：どこに表現の工夫があるのか，一緒にしるしをつけながら考えたり，アドバイスをしたりする。 ○ 本時の交流で感じたことを中心に話すようにする。 ○ 次時は，物語を仕上げることを知らせる。	A：「お宝・松」「お宝・竹」「お宝・梅」以外の表現の工夫が物語の中に取り入れられていることに気付いている。 B：友達の書いた物語に「お宝・松」「お宝・竹」「お宝・梅」が取り入れられていることに気付いている。 (発言・行動観察・作品)